

51回目の国会請願行動

5月15日、治安維持法による弾圧犠牲者への国家賠償制定を求める国会請願行動が行われました。全国から11万5千筆の国賠署名が集まりました。請願行動には全国から150人が参加。衆参270人の国会議員の国会事務所を訪問し、要請行動を行いました。立憲民主党の近藤昭一議員、日本共産党の宮本岳志議員、山添拓議員が激励に駆け付けました。滋賀県本部から柚口事務局長が参加しました。

吉田万三中央本部会長は「侵略戦争反対と訴えた人だけでなく、ただ絵を書いただけの人、本を持っていただけの人、も特高によって捕まった。当時の庶民にとっても窮屈な監視社会だった。私たちは犠牲者の名誉回復と謝罪を求めてたたかい続ける」と挨拶をし



挨拶をされる吉田万三会長



菱谷良一さん

ました。今年も北海道旭川の「生活凶画事件」の被害者である菱谷良一さん（102歳）が元気な姿で参加されました。菱谷さんは、「治安維持法によって拘束された事実に対し、肉体的、精神的損傷に対し何らかの弁償を要求するものである。被害者の一人として国賠同盟の一人として声をあげたい」と力強く述べました。



滋賀県版No.365

2024・6・15

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034

東京都文京区湯島2-4-1
平和と労働センター・
全労連会館

発行

滋賀県本部

大津市竜が丘11-22-316

☎077-521-0884

柚口 延

6月1日現在

会員 340人

(目標400人)

個人署名

2835筆

(目標5,000筆)

団体署名

38筆

(目標150筆)

県本部総会のお知らせ

期日 7月7日(日)

会場 平野市民センター

JR膳所駅徒歩5分

★第一部 13時30分～15時

講演会

講師 額・厚さん

(山口大学名誉教授)

全国革新懇代表世話人

演題

「戦争の足音響く現在を問う」

「歴史から何を学ぶのか」

「俳人三橋敏雄は『戦前の一」

本道が 現る」と世相を詠ん

だ。戦争への足音が段々大きく

なつてなっている現在、かつての

戦争と弾圧の時代を今一度想起す

べきと思われる。先達の苦しみと

悲しみを2度と繰り返してはなら

ない。そのために歴史を教訓と

し、未来を切り開くために団結が

求められている」(額・厚さんから

のメッセージ)

★第二部 15時～16時30分

県本部総会

伊藤千代子の顕彰碑を訪ねて

川東繁治

国民救援会滋賀県本部は5月12日、13日、信州人権と平和の旅バスツアーを実施し、弁護士や救援会員ら24名が参加しました。行先は長野県諏訪市の伊藤千代子顕彰碑と阿智村の満蒙開拓平和記念館です。

伊藤千代子の墓所と顕彰碑は、山の斜面にあり、急坂を上りました。眼下に諏訪湖や遠くに車山や八ヶ岳が望める場所にありました。千代子こころざしの会の藤森守さん（元共産党諏訪市議）が迎え下り、千代子の生い立ちや顕彰碑建立の経過について説明を受けました。

バスツアー参加のほとんどの方は映画「わが青春つきるとも」を鑑賞しており、複数回鑑賞の方もおられました。千代子のお墓には一人ひとりが手を合わせ、冥福を祈りました。お墓から少し離れたところにある顕彰碑には菊の花を



手向け、献杯も行いました。

ツアー二日目は阿智村の満蒙開拓平和記念館を訪れ、説明員からレクチャーを受けたあとDVDを鑑賞し、館内の展示資料を順番に見ました。千代子の生きた時代から戦争の時代に至る歴史を、つなげて考えることができたのではないかと思います。参加者の感想は「ぜひ来たかった」「これを機に勉強したい」「志が同じ方たちと来れてよかった」「来年もやってほしい」と絶賛されました。

（国民救援会滋賀県本部 事務局長）



支部だより

湖北支部

ニャン太との二人（？）暮らしになつて早や1年が過ぎ、月日の過ぎてゆく時間にとっても追いついていけないことを実感し、ただただ落ちこぼれていきそうな思いで毎日を過ごしています。

ところで「国賠」って何？と言われて、ほんまやね、何か長ったらしい名前やつて確認すると、「治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟」これが正式名称。漢字ばかりで16文字、なんと長い。でも文字で見ると一目瞭然、そのままですけれどちょっとあまり一般的でないような。

歴史ある闘いの中から生み出されてきた「名称」と重みを感じずにはいられません、ちよつとむつかしいかな？いろいろな運動から少し距離のある人には近寄りにくいかな？いずれにしても、暗い歴史にフタをすることなくきちんと正しく伝えて

（3頁につづく）

(2頁より)

二度と再び暗黒の時代に立ち戻る
ことのないよう運動を進めていく
ことはとても大切なことだと思います。

ところで、この号は皆様のお手
元に届く頃には桜をはじめいろん
な花が咲き誇り、うららかな春の
陽ざしが皆様の気分を春らしく包
み込んでいる頃かと思いますが、
そんな春の気分をぶちこわすよう
なあの「キックバック」の問題は
どうでしょう。

いろんなところで厳しい批判に
さらされているのに自民党の当事
者の態度はどうでしょう。「赤
旗」で報道されるまで誰も知らな
かったというのも驚きですが、明
るみに出てからも当事者たちが、
違法なことや悪いことやと知って
いながらの認識の甘さ。

悪いことをしても、知らんかつ
たら、見つからんかったら、何を
してもよいなら警察いらんわ！っ
て思いますよね。

怒りが投票に結びつくように一
人ひとりが考えていきたいし、運

動も盛り上げていかなくては、と
思うこの頃です。

(編集部)

(千田幸子)

湖北支部版「不屈」2024年
4月号から

甲賀湖南支部

岸田内閣は、経済秘密保護法案
(重要経済安保情報法案) 注1の成
立を急いでいます。同法案は、国の
安全保障にかかわる経済情報を「重
要経済安保情報」に指定し、その情
報にかかわる人のプライバシーを調
べることとなります。

「適正評価」と称して、個人の政治
信条、犯罪歴、飲酒や借金の有無な
どを基準に、本人だけでなく、家
族・親族まで及ぶものです。

法案では、内閣府が情報調査を実
施する仕組みですが、実際には、公
安警察や公安調査庁、内閣情報調査
室が担うことになるのではといえま
す。

1925年(大正14年) 4月に
公布された治安維持法は、「国体
を变革し、……結社を組織」
することに適用していたものが後
に改悪され、考えを持った者、同
調した者にまで広げ、違反すれば
死刑を含む弾圧法になりました。

経済秘密保護法が、直接に戦前
の治安維持法と関係ないように映
りますが、質的変化した「日米問
盟」のもと、あらゆる分野におい
て、政府の都合に合わせた「適正
評価」をすすめることが危惧され
ます。

(今井洸一)

(編集部)

甲賀湖南支部版「不屈」202
04年4月号から

注1 重要経済安保情報保護法
は、5月10日に成立し、17日に公
布されました(公布から1年以内
に施行)。

登戸研究所資料館を訪ねて

5月15日の国賠同盟の国会請
願行動の翌日、神奈川県川崎市
の登戸研究所資料館を訪ねまし
た。正式には「明治大学平和教
育登戸研究資料館」といい、明
治大学生田キャンパスのなかに
あります。生田キャンパスはか
つての旧陸軍の登戸研究所の敷
地内に立地しています。

登戸研究所は、旧陸軍の秘密
戦(防諜、諜報、謀略、宣伝)
を研究するために1937年
に設置され、一般には存在を秘
密にされていました。帝国大学
の研究者が多数集められ、風船
爆弾の製造、細菌・毒物兵器の
製造、偽札製造などが行われま
した。細菌兵器といえば、七三
一部隊を想起しますが、憲兵隊
と連携し、中国や朝鮮で細菌の
散布実験を行い、大規模に研究
開発がされていたとは驚きで
す。

(原本部 柚口延)

治安維持法体制下での抵抗の群像・滋賀⑮ 文化運動への弾圧(2) 新劇運動

高田 直樹

土方与志や小山内薫らが1924年に設立した「築地小劇場」は今年の6月で創設百年を迎えました。築地小劇場は劇団と一体となった常設劇場で、新劇の原点といわれた劇場です。33年3月15日には小林多喜二労農葬がこの劇場で行われています。

築地小劇場を拠点にした新築地劇団は「日本プロレタリア劇場同盟」(略称プロット。28年12月結成)に31年に加盟し、左翼劇場と新築地劇団が中心となりプロットの活動は飛躍的に発展しました。しかし32年以降プロレタリア文化運動関係者への弾圧がくり返され、34年にプロットは解散します。その後、左翼劇場系と新築地劇団の残留メンバーによってリアリズム演劇の再建が図られ、新築地劇団と新協劇団によって戦前の

創作劇の全盛時代をつくりだしました。しかし、40年8月、新築地劇団と新協劇団が一斉検挙され、権力の強制による「自主解散」に追い込まれました。40年8月24日付の「東京朝日新聞」は見出しに「『新協』と『新築地』解散」「当局の勧告で自発的に」「基調は赤の思想」と掲載しました。この時の検挙者は両劇団関係者を中心に全国で80名にのぼりました。

その後の演劇人たちは、ともかくも舞台で演ずることで生き延びるために、国策による移動劇団に組み込まれて、各地を巡回しました。築地小劇場は、終戦の年の東京大空襲で焼失しました。戦後の日本新劇は再び40年の地点まで戻って再出発することになったのです。この40年の大弾圧で検挙された一人が滋賀県ゆかりの東野英治郎です。

【東野 英治郎】(別名・本庄克二) 本籍・滋賀県蒲生郡東桜谷村鳥居平(現日野町大字鳥居平)。1907年9月17日、群馬県富岡生まれ。父捨吉が日野から群馬県富岡に移り、東野酒店を営み、妻シズも日野から迎えた。両親は晩年、故郷の鳥居平に帰って暮した。

英治郎は旧制富岡中学卒業後、明治大学に入学、社会科学研究会に参加した。その後、新築地劇団に入り、31年、築地小劇場に開設されたプロレタリア演劇研究所の1期生となった。33年6月18日コップ(プロレタリア文化運動)拡大中央協議会のデモに参加し検挙される。

40年8月新築地劇団と新協劇団が一斉検挙され、新築地劇団の中心メンバーであった東野も検挙され、9カ月の留置場生活を送る。釈放後、41年小沢栄太郎と共に京都へ行き、興亜映画に参加。帰京後は44年2月に結成された俳優座の創立にかかわり、千田是也を助けながら若手の指導に当たった。劇団俳優座として移動演劇「芙蓉隊」の活動中、敗戦と

なる。この頃のことを後に「私の場合は移動演劇という名のもとに戦争に加担したことは事実として認めておいたほうが、後世の人が歴史というものを正確につかむためにもよさそうである」(『私の俳優修業』)と率直に書いている。

戦後は松竹映画や、俳優座を中心に舞台役者として活躍するとともに、TVドラマの初代『水戸黄門』を演じ、人気を博した。94年9月8日死去。(参考文献・東野英心『漫遊役者東野英治郎』2015年ラビュータ)

地方劇団への弾圧

40年の新劇関係者への弾圧は地方にも及びました。大阪の「大阪協同劇団」「劇団制作派」「大坂人形座」、京都の「エランヴィタール小劇場」なども「自発的」解散に追い込まれ、雑誌『テアトロ』は発行停止、人形劇団ブークには解散命令が出されました。この「大阪協同劇団」の創設メンバーである馬淵薫は、戦後の草創

期に日本共産党滋賀県委員長を務めた人です。

【馬淵 薫】(別名・木村武)

1911年2月4日生まれ。

本籍は大阪市東区平野町。北野中学で弁論部。関西大学予科2年中退。28年学生社会科学研究会に参加する。29年「山本宣治が暗殺されたときも、山辺(健太郎)の指導下で追悼カンパのガリキリ、ビラマキ、ブタ箱を初体験した。」(『山辺健太郎・回想と遺文』)。30年、共産党の家屋資金局で第一印刷局を担当。2月丹羽道雄とともに春日出車庫、東洋紡四貫島工場へ共産党ビラを撒布。また三島郡の農村オルグに参加する。この時期、検挙を逃れるため小樽の祖母の知り合いに世話になるが、大阪の特高により検挙される。8月15日予審請求、32年4月大阪控訴院で懲役2年、執行猶予5年の判決を受ける。中山寺の宿坊に養生という名目で監禁される。その後、大阪協同劇

団の創立に木村武の名で参加。40年8月30日新劇関係者のいっせい弾圧により検挙、翌年2月21日起訴される。

戦後については、本人が『運動史研究』に「戦後、大阪地方委組織活動指導部。2・1スト後、党機関から追放され、滋賀県オルグ。後、同県委員長。50年活動停止処分、上京。六全協後、離党。以後日本シナリオ協会所属。作品『赤線基地』『大阪城物語』『世界大戦争』『ゴジラとヘドラ』ほか」と書いている。

滋賀県でオルグ、共産党県委員長として活動したのは、48年頃から49年10月頃まで。このころのことを滋賀で活動し、後に馬淵の妻となった政子さんは「共青や組合の演劇関係者を募り、『三月座』を結成し、馬淵は一晩くらいで脚本を書きました。脚本、演出、装置プログラムづくりから人形づくり、一人六役くらい背負って張り切って皆を動かして働きました」と回想している(『回想 馬淵薫』)。

党活動を離れた後は、大阪協同劇

女性と日本共産党員への二重の偏見・

差別を生き抜いたひろ子さんを悼む その2

西田 清

(不届5月号から続き)

七十年余、誰にも話してこなかった色々を、お出会いしてから走馬燈の様に越し方を振り返り、本当に感無量です。

だからだと長い六十年のぐちを聞いて頂くことをどうぞお許しください。

そして世の中だいが変わりました。かすりのモンペ・ハンテンでリヤカーを引き、山へ出ていた日々。その在所の中で一番早く車に乗り(現在も)ました。

団時代の仲間であり東宝プロデューサーの田中友幸を頼って上京しました。東宝特撮映画のシナリオライターとなり、木村武の名で18本、馬淵薫名で6本の脚本を書いている。87年5月3日死去。

(県本部 副会長)

女性と日本共産党員への二重の偏見・

差別を生き抜いたひろ子さんを悼む その2

西田 清

もう今年で五十年になります。そしてその山や田は今、新名神のインターの敷地の下にあります。脑梗塞で主人が入院して丸五年、もうこんな話は誰にも聞いてもらえません。主人にも……。

突然のお手紙、お許しください。こんごともよろしく。いつか又お目にかかれることもある事でしょう。

どうぞ御身大切に人民のためにがんばってください。遠くよりお祈り申し上げます。思いつくまま乱筆乱文にて失礼します。ご判読下さい。

その後、ひろ子さんとは会わずに済んでしまった。彼女に国賠同盟への加入を勧めなかったことをいまは後悔している。

(県本部 副会長)

滋賀と朝鮮 99

(番外編) 「キャンペー」 滋賀公演を終えて

河 かおる

来週末に東京の研究会で発表する準備があまり進んでいなくて気持ちに余裕がないので、今回は「番外編」とさせていただきます（「番外」と言いながらいつも番号を付けてしまっています）。今年3月の連載96「空襲の朝鮮人犠牲者」で書きました、創作劇「キャンペー」の滋賀公演を去る6月1日（土）に成功裏に終えることができました。観に来てくださった方、応援してくださった方、本当にありがとうございました。

「キャンペー」は、単に空襲体験（だけ）の劇ではなく、空襲体験を語れずにいる朝鮮人（の幽霊）、語れないものを聞き、見えないものを見ることの大切さに気付いた中学校の社会科教師の青年、その青年および幽霊と出会ったキャンペーの女性と観客が、共

に、語れないものを聞き、見えないものを見る、感じる、そんな劇だと思いました。

朝鮮人（の幽霊）の登場人物は、野洲市在住の鄭末鮮さんとご家族をモチーフにしていることは連載96でも書きました。社会科教師の青年は、大阪空襲の朝鮮人犠牲者の実態調査をされてきた皆さん（特に故・塚崎昌之さん）がモチーフかなと思います。そしてキャンペーの女性と朝鮮人の少女（幽霊）とが、食べ物や歌を通じて気持ちを通じ合い、朝鮮の名前を聞かれ、ためらいながらも答えるという場面は、鄭さんと朝鮮文化を考える会「チング」の出会いがモチーフなのかなどと想像しました。

劇そのものの感慨に加えて、私は今回、鄭さんが辛くて劇を見る

ことができない様子が強く印象に残りました。観劇中、鄭さんの後ろ姿が見える場所に座っていたのですが、劇が始まってまもなく、いつも姿勢よくまっすぐ前を向いている鄭末鮮さんが、視線を下に落としてうなだれているのがわかりました。劇が終わった後に、短いトークを願って、私はその聞き手をする事になりました。鄭さんは気丈にも約束通り前に出て、ずっと忘れようとしてきたことを、なぜ辛くても語ろうと思ったのか、それは「戦争はあかん」ということを一人でも多く知ってほしいからだとしつかりお話くださいました。そして私はおそろおそろ「劇を観ることが辛うございましたが、もしかして印象に残った場面などは」と聞いてみました。すると、「すみません、辛くて全然見られてないんです」とおっしゃいました。

私は「キャンペー」公演を鄭さんの地元である滋賀県で実現し、鄭さんのご家族や親戚、知人にも一緒に見てもらいたいとの企画に取り組んできましたが、鄭さん自身がこの演

劇を見ることで、どんな気持ちになるのか、きちんと想像できていなかったことに気づきました。被害体験から79年の長い年月が経っても、空襲体験の封印を解いて語り始めてから十数年が経っていても、トラウマは呼び起こされるのだということが、ちゃんとわかっていませんでした。もしかして私は、鄭さんのトラウマの傷口を広げるようなことをしてしまったのではないかと不安になりました。

そんなことを悩みながらこの原稿を書いていたら、安田菜津紀さんのRadio Dialogueという音声番組で、沖縄戦のトラウマによる後遺症と向き合ってきた精神科医・蟻塚亮二さんへのインタビュー「福島・沖縄・戦争——そのトラウマと向き合う」が配信されたので、聞き入ってしまいました。さらに蟻塚さんの『沖縄戦と心の傷——トラウマ診療の現場から』（大月書店、2014年）が電子書籍で売っていたので、思わず入手して一気に読んでしまいました。

た。すると戦争や災害のトラウマによるストレス症候群を診断で見つけるには、「見えないものを見」ようにすることが大切だという、「キャンパー」と同じキーワードが出てきて驚きました。

蟻塚さんが沖縄戦のトラウマ診療に取り組んできた経験から、トラウマを乗り越えるために必要なこととして書いていたのは（紙幅の関係で一部しか紹介できませんが）、「悲しむ能力ー泣いてもいいんだ」「語れる相手の存在」でした。聞いてくれる相手、悲しみや怒りを受けとめてくれる相手がいなければ、人は悲しむことも怒ることもできないと。そして、音楽や芸能はトラウマへのレジリエンス（抵抗力）の源泉だとも書かれていました。

鄭さんが、70歳を過ぎて朝鮮文化を考える会「チング」に入って、共に朝鮮の音楽を奏でる仲間、朝鮮人である自分を語れる相手と出合い、文字を学んで、そうしてからも長い時間をかけてはじめて空襲被害について徐々に語りはじめ、涙を流して悲しいという気持ちを表せるように

なったというプロセスが、この本で説明されているような感覚になりました。一方で、次のことも指摘されていて、先述のとおり私自身にも想像力が不足していた面があると身につまされました。

「よくテレビ局関係者は、簡単に取材を希望されるが、戦争体験者はふだんからトラウマ記憶がひよんなこととで表面化して、心身が痛んで震えて眠れなくなる体験をくり返しておられるのだ。そんな彼らがテレビ取材を受けた後の地獄のようなトラウマ反応に耐えるつらさを想像してほしい。」

幸い、鄭さんは辛かったけど、（滋賀公演を）やって良かったと思っていると語って下さっていて、少し安心しています。鄭さんに限らず、ひどいことが二度と繰り返されないために、自らのトラウマと向き合って語ることの辛さ、そして語り始めたからといってトラウマが消えたり薄くなるわけではなく、むしろ語るたびにトラウマが呼び起こされる、それでも語ってくださるすべ

ての方々に、私たちの社会は本当に多くを負っているということを感じしました。証言者の悲しみや怒りをしつかり受けとめて、共に悲しみ、怒り、社会を変えて行く努力をしなければとの思いを新たにしました。

蟻塚さんが出ているRadio Dial 03のQRコードはこちらです。是非聞いてみてください。

（滋賀県立大学准教授）



（8頁より）

近江絹糸人権争議70周年の6月7日は過ぎてしまった。何らかの記念行事をしたいと考えていたが、体調を壊し入院するなどの不測の事態に見舞われ、何もできなかった。仲間の援助を仰ぎ、今年中に具体化したい。

（大津支部）

雑誌『治安維持法と現代』

2024年春季号

【同盟活動】では、滋賀県の伊藤千代子上映運動の取組について古谷道代さんが書かれています。

【巻頭論文】自民党の教育政策の功罪Ⅱ前川喜平、緊急事態の改憲論の問題点Ⅱ小沢隆一、経済安保秘密法案の危険な仕掛けⅡ井原聰

【学習コーナー】

自民党派閥の裏金事件について組織的犯罪とはどういう意味かⅡ山本豊彦

申し込みは県本部まで

自由と人権・平和をわが人生に重ねて⑯

白石道夫

常任活動家として踏み出すにあたっては、世間並みにいえば、大変だった。「給料はどうなる」「月々ちゃんともらえるか」これが大問題だった。私は、多分給料はまともに出ないだろうと覚悟していたが、思い出すのは、当時の県委員長古武家昇平さんの言葉である。「暮らしに困ったらパンフを売ってこい」だった。単純であるが、職業革命家としてはそのくらいの覚悟がいる、と当時は受け止めていた。

妻は反対だった。1963年から64年にかけての我が家は、貧乏暮らしはともかくも、63年12月に長男が生まれ、これから子育てで物入りが続くという時期だった。

一方、職場では会社側の企業再建の一環として大量の希望退職の募集が行われようとしていた。退職金の上積みもちらつかせていた。さてどうするか。妻の反対をその

ままにしてはダメということで、県副委員長だった仲川半次郎さんに話をしてもらったり、菊池完さんの暮らしよりも話し合ったりするなどの努力を尽くして、一応賛成してもらった。

党は会社側が打ち出している希望退職に反対だった。したがって希望退職に便乗して退職金の上積み金を受け取って辞めるわけにはいかない。正式発表になる前に退職することになった。この件では、高田弘さんと話し合ったことがある。「お前は共産党の常任になれ。俺は希望退職の勧奨に負けないで最後まで頑張る」と。結果、高田さんは転勤だった。

1964年3月、無事退職、党の常任活動家として踏み出した。湖北地区委員会の事務所は菊池さん宅だった。私の頭のなかは、次の市議選で何としても菊池さんを当選させる――これしかなかった。しかし

専従役員としてはそれだけで済むわけがない。まずは、しんぶん赤旗の配達・集金、党員が納めた党費の回収などをしっかり取り組むとともに、支部会議に出かける。

支部会議でいえば、私が最初に担当したのは教員支部だった。中卒の自分に先生方を指導、援助できるわけがない、どうしたものかと考え、ここはよく話を聞く、相槌を打ちながらまとまる方向に持っていく。これが精いっぱいだった。さすが教職のみなさん、私を助けてくれた。会議後の「一杯飲み」にも誘ってくれた。長浜にも出かける機会があった。地域支部や電話局などの会議に出かけた。電話局の支部では、女性中心だったので会議中は禁煙を心掛けた。67年の統一地方選挙が近づくと、候補者活動に専念する菊池さんに代わって地区委員長を引き受けることになった。

この頃の活動で心掛けたことが一つある。私は地区役員のなかで最も若い、党歴も10年にも満たない、そんな若僧の指導・援助を受け入れてもらうためにどうするかを考えた。

妙案はないのでとりあえず先輩の話をよく聞く、これは支部会議に出かけたときも同じで党員の話に耳を傾けた。時間をつくっては長老のもとを訪ね意見をうかがうことも心掛けた。長老という点では、当時レッドパージで職場を追われ、たたかいつつ行商で暮らしを支えたという党員も少なからずおられた。

実は、地区役員、県役員のなかで一番若かったもので、後に若い党員が地区や県の指導部に入っても年下という感じではなく、同僚という感じだった。私にとつて専従役員を辞めるまでの活動スタイルであった。

1967年4月、いよいよ彦根市議選である。候補者は菊池完さん。厳しい選挙戦をたたかい抜いて見事当選。彦根市で初めての共産党議席の獲得である。手元に資料がないので票数、順位などを伝えられないのをお許し願いたい。

2004年に専従役員を辞めるまでの40年間、走り続けた。

(7頁につづく)